

【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年6月26日
【会社名】	東洋製罐グループホールディングス株式会社 (旧会社名 東洋製罐株式会社)
【英訳名】	Toyo Seikan Group Holdings, Ltd. (旧英訳名 TOYO SEIKAN KAISHA, LTD.)
【代表者の役職氏名】	取締役社長 金子 俊治
【最高財務責任者の役職氏名】	取締役専務執行役員 藤井 厚雄
【本店の所在の場所】	東京都品川区東五反田二丁目18番1号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

(注)平成24年6月28日開催の第99回定時株主総会の決議により、平成25年4月1日付で会社名及び英訳名を上記のとおり変更いたしました。

1【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長金子俊治及び取締役専務執行役員藤井厚雄は、当社及び連結子会社（以下、「当社グループ」といいます。）の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の改訂について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであるため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

2【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である平成25年3月31日を基準日として行われており、評価にあたっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しました。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす全社的な内部統制の評価を行ったうえで、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しました。当該業務プロセスの評価においては、選定した業務プロセスを分析したうえで、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制については、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から、当社グループのうち当社及び連結子会社19社を評価の必要な範囲と決定しました。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲は、財務報告に対する金額的及び質的影響の重要性を考慮し、当社及び連結子会社19社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、前連結会計年度の売上高を基準として概ね2/3に達している8社を「重要な事業拠点」としました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金及び棚卸資産に至る業務プロセスを評価の対象としました。

さらに、財務報告への影響を勘案して、重要な虚偽記載の発生可能性の高い業務プロセス並びに見積りや予測を伴う重要な勘定科目及びリスクの大きい取引に係る決算・財務報告プロセスを重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しました。

3【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社グループの財務報告に係る内部統制は有効であると判断しました。

4【付記事項】

当社は当事業年度末日後、平成25年4月1日付で、会社分割の方法により持株会社体制へ移行しました。この持株会社体制への移行が、翌事業年度以降の当社グループの財務報告に係る内部統制の有効性の評価に重要な影響を及ぼす可能性があります。

5【特記事項】

該当事項はありません。